

オーストリア中銀総裁、ECB利上げ「FRBより長期化も」 年後半も利上げ継続の公算

2023/3/6 20:07 | 日本経済新聞 電子版



ウィーンのアオストリア中銀で取材に応じるホルツマン総裁（マルクス・イーゲル撮影）

【ベルリン＝南毅郎、ロンドン＝赤川省吾】オーストリア中央銀行のホルツマン総裁は日本経済新聞に対し、5月までにインフレ基調が落ち着かなければ欧州中央銀行（ECB）は「追加利上げするだろう」と語った。利上げ終了時期は米連邦準備理事会（FRB）より後だと見通しを示し、年後半も利上げを続けるべきだとの考えを示唆した。

ホルツマン氏はECB理事会のメンバーで、金融引き締め積極的に「タカ派」の有力者。ECBは3月16日の理事会で0.5%の大幅利上げを決める方向で、足元では5月以降もペースを維持するかが焦点になっている。

ユーロ圏の消費者物価は、エネルギーや食品などを除く「コア」ベースでなお上昇基調にある。資源高は一服したものの、賃上げ機運を背景に値上げの裾野がモノからサービスに広がる。

ホルツマン氏は「歴史的なデータを踏まえても（高い）物価上昇率がすぐ通常値に戻る兆候はない」と指摘。「（過去の利上げが）まだインフレ抑制に効いていない」ことから「金融政策で引き続きブレーキをかけないといけな」と利上げ継続を明言した。

利上げペースの減速には強い調子で反対した。5月に利上げ幅を0.25%に縮小すれば「イ

ンフレに打ち勝ったとのシグナル」になってしまうと語った。

先んじて動いたFRBは、利上げ終了時期が「我々より早いだらう」と指摘した。金融市場は年央をめどにFRBが利上げを終えると織り込んでいる。ホルツマン氏の発言からは、利上げは年後半も続けるのが望ましいとの考えがにじむ。

過去の金融緩和で膨らんだ保有資産の削減量は、今夏以降に「引き上げるだらう」とホルツマン氏はみる。削減幅は「最高でも210億ユーロ（約3兆円）」と言及した。ECBは6月にかけて月150億ユーロ規模で減らすとしており、夏以降の対応が注目されている。

ECB理事会は、もともとインフレファイターとして知られたドイツ連邦銀行（中銀）など「タカ派」の発言力が強かった。南欧の信用不安やデフレ懸念に見舞われたドラギ総裁時代（2011～19年）に金融緩和を重んじる南欧勢ら「ハト派」が主導権を握ったものの、最近になって再びタカ色を強めた。

10%を超える物価上昇が続く中・東欧勢が中間派からタカ派に転じ、理事会の力学バランスが変わった。欧州景気の失速懸念が遠のいたこともECBの金融引き締めを後押しする。

取材では、[日銀](#)の金融政策にも言及した。FRBとECBが金融政策の正常化を進めれば「日銀の金融政策に影響するかもしれない」と述べた。次期総裁候補の植田和男氏については「非常に経験豊富なセントラルバンカーで欧州は好感を持って受け止めた」とし、政策修正を注視する意向を示した。

Robert Holzmann ウィーン大学で経済学博士号。国際通貨基金（IMF）や世界銀行、学者などを経て2019年から現職。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.